

薄型突っ張り収納庫 幅45 チェストタイプ 組立説明書

部材 - 部品明細

—この度は本品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

たんす類の品質表示

寸法

外形 約幅450mm × 奥行316mm × 高さ1830~2520mm

引出しの奥行き 内寸235mm・外寸250mm

表面材 プリント紙化粧合板

表面加工

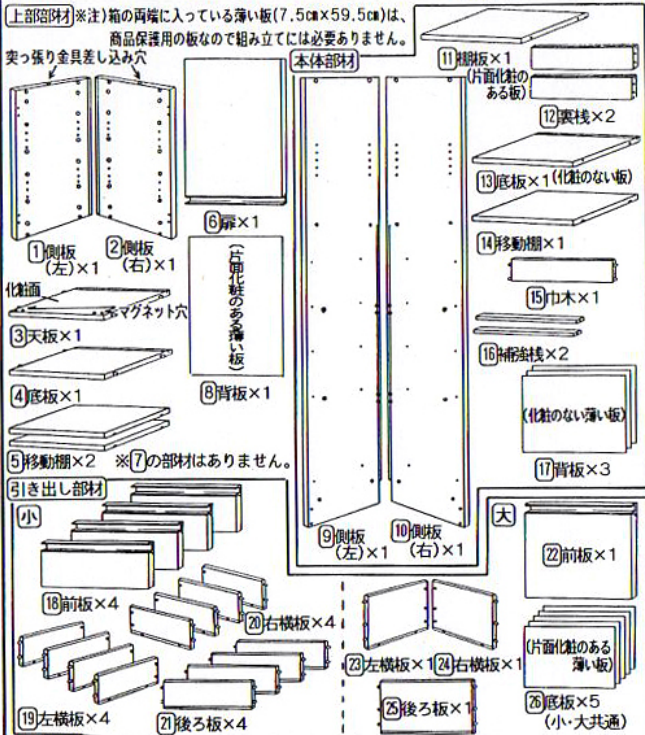
取り扱ひ上の注意

イ、搬入の際には、湿気の多いところを避け、家具を水平に保つために必要な措置を講じてください。

ロ、直射日光または、ストーブの熱を避けてください。

耐荷重量についての表示 可動棚約10kg、引き出し(小)約5kg、(大)約10kgを超えない範囲でご使用ください。

(部品明細) ※下図に描かれた部材・部品が揃っているか、確認して下さい。



△組み立て前に必ずお読み下さい!

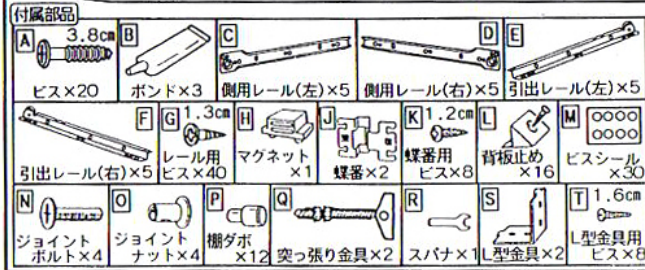
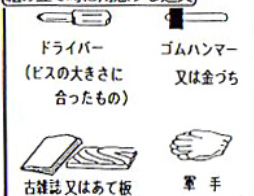
- 塗料・接着剤等の臭いがある場合があります。梱包を開けて作業する場合は通気性を良くして行ってください。
- 組み立ては十分に広い場所で行い、まわりの家具や床等に傷がつかないように注意してください。
- 組み立ての際は指を挟んだり、足にものを落とさないように充分注意してください。
- 組み立てる前にまず部材・部品を確認してください。
万一、傷・不足があればご面倒ですが下記のお問い合わせ窓口までご連絡ください。
- ボンドをつける前に仮組み(確認)をすると、間違いが防げます。
- 部材をボンドで接着した後では外す事ができませんのでご注意ください。
- ビスのプラスチックに合ったドライバーを使用し、最初は仮締め程度にして組み上がってから締めてください。
- ビスを必要以上に締め過ぎると、空回りして効かない場合があります。電動ドライバーをご使用の場合はご注意ください。
- ボンドが完全に乾いてから(12時間程度が目安です)ご使用ください。尚、はみ出たボンドは拭き取ってください。

(注意) ※商品を保護するために薄い板が2枚入っていますが、組み立てに必要な部材ではありません。

※裏面の取扱説明書も必ずお読み下さい。また、この説明書はいつでも見られるように大切に保管して下さい。

上記の注意事項に充分注意して、正しく組み立てて下さいますようお願い致します。

組み立て時に用意する道具



組み立ての手順

番号の順番に従って、組み立ててください。

※ハンマーで叩く場合は、あて板・古雑誌(厚みが2cm以上あるもの等)をあててください。

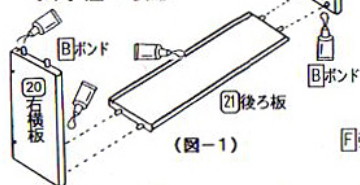
1 引き出しを組み立てる。

●引き出し(小)の組み立て

※同じ要領で引き出し(小)を4個組み立ててください。

(1)左・右横板(19・20)の穴2個づつに

Bボンドを入れて、21後ろ板を取り付け、19・20・21の各溝(各2カ所程度)にBボンドを入れておきます。(図-1参照)



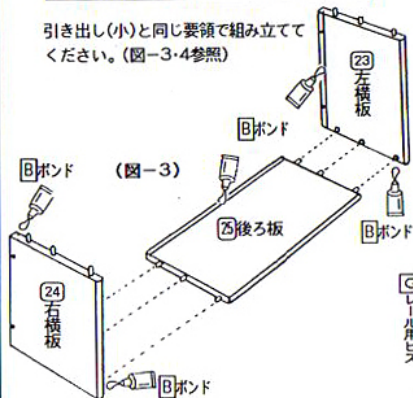
(図-1)

(3)19左横板にE引出レール(左)を、20右横板にF引出レール(右)をそれぞれ左・右に注意して、Gレール用ビスで取り付けてください。(図-2参照)

●引き出し(大)の組み立て

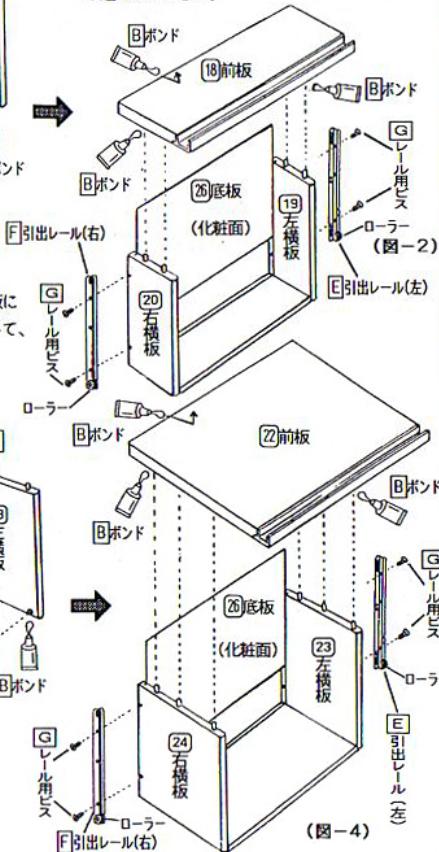
※引き出し(大)を1個組み立ててください。

引き出し(小)と同じ要領で組み立ててください。(図-3・4参照)



(図-3)

(2)19・20の溝に沿って26底板を化粧面に上に向けて差し込み、18前板の穴4個と溝にBボンドを入れ、19・20の突起した部分に穴を合わせて、傷のつかないようにあて物をあてて打ち込みます。(図-2参照)この時、26が各溝に入っているか確認してから打ち込んでください。



(図-4)

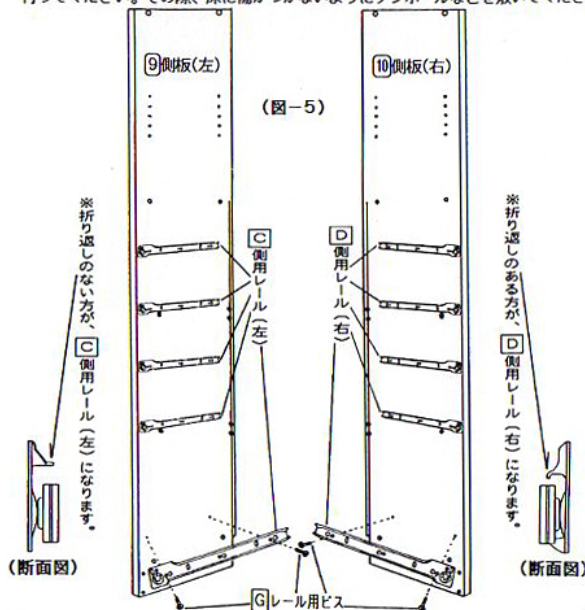
2 側板に側用レールを取り付ける。

(1)9側板(左)の印し(10カ所)にC側用レール(左)を合わせ、Gレール用ビスで取り付けます。(図-5参照)

(2)同じ要領で10側板(右)にもD側用レール(右)を5本取り付けてください。(図-5参照)

※図-5は側板を立てた図になっていますが、レールの取り付けは側板を床に置いた状態で行ってください。その際、床に傷がつかないようにダンボールなどを敷いてください。

注意 側用レール(左・右)の取り付け位置は、図-6を参考にして取り付けてください。



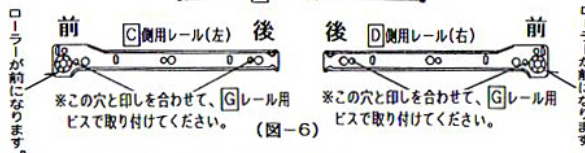
(図-5)



(断面図)



(断面図)



※この穴と印しを合わせて、Gレール用ビスで取り付けてください。(図-6)

※この穴と印しを合わせて、Gレール用ビスで取り付けてください。

注意 ※Gレール用ビスはまっすぐにねじ込んでください。

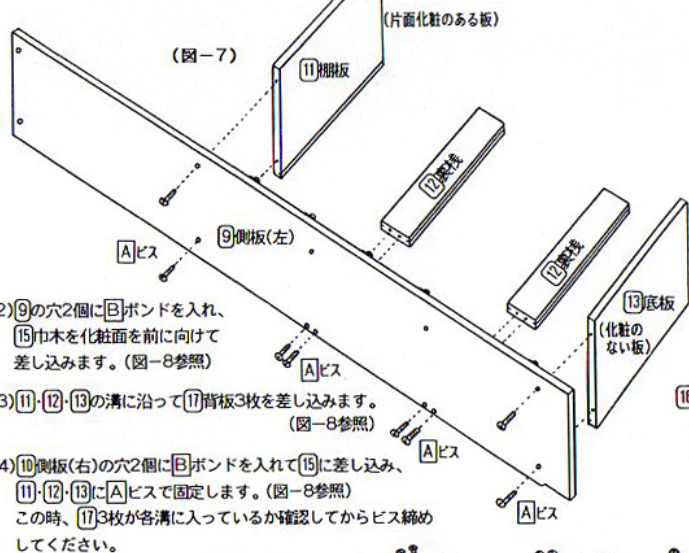
斜めにねじ込むとビスの頭が出て、引き出しの出し入れに支障が出る場合があります。

※Gレール用ビスが入りにくい場合は、きりや先のがつた物で印しを深くして取り付けてください。

▼組み立ての手順が裏面に続きます。

3 本体を組み立てる。

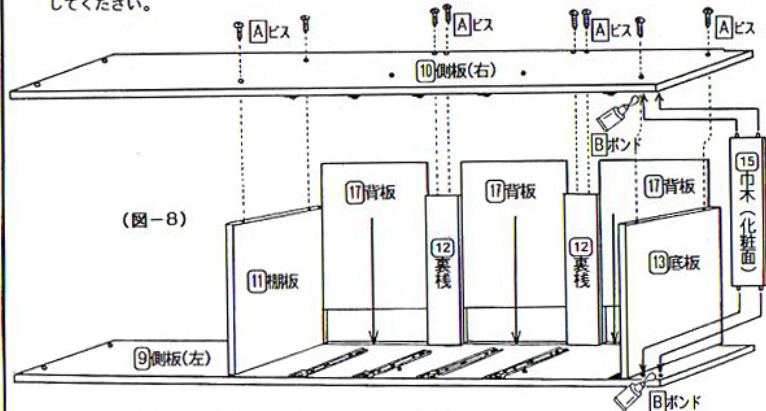
- (1) ⑨側板(左)に⑪棚板・⑫裏板2枚・⑬底板を、それぞれ向きと位置を間違えないようにして、
Aビスで取り付けます。(図-7参照)



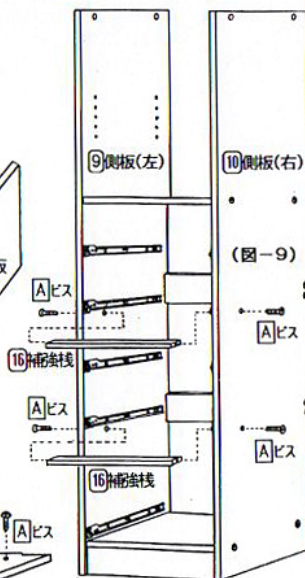
- (2) ⑨の穴2個にBボンドを入れ、
⑮巾木を化粧面に前に向けて
差し込みます。(図-8参照)

- (3) ⑪・⑫・⑬の溝に沿って⑰背板3枚を差し込みます。
(図-8参照)

- (4) ⑩側板(右)の穴2個にBボンドを入れて⑮に差し込み、
⑪・⑫・⑬にAビスで固定します。(図-8参照)
この時、⑰3枚が各溝に入っているか確認してからビス締め
してください。



- (5) ⑯補強板2本を、左右側板⑨・⑩に
Aビスで取り付けます。
(図-9参照)

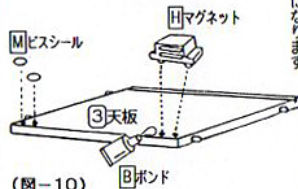


4 上部を組み立てる。

注意※マグネットを取り付ける時は、扉を右開きにするか左開きにするか決めた上で取り付けてください。

- 扉を右開きにする場合………

- ③天板の穴2個にBボンドを入れて
Hマグネットを取り付け、不要な穴
2個にMビスシールを貼ってくださ
い。(図-10参照)

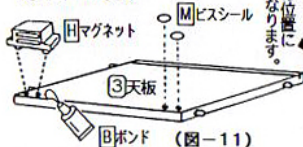


●マグネットを図-10の位置に取り付けると
右開きになります。

●マグネットを図-11の位置に
取り付けると左開きになります。

- 扉を左開きにする場合………

- ③天板の穴2個にBボンドを入れて
Hマグネットを取り付け、不要な穴
2個にMビスシールを貼ってくださ
い。(図-11参照)



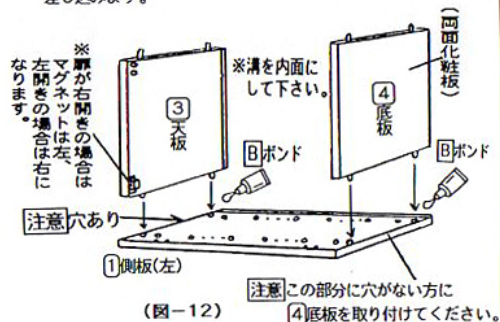
※かいた場合はHマグネットに古雑誌などをあて軽くたたいて
ください。
なお、たたき過ぎると破損する恐れがありますので、マグネッ
トの突起した部分(差し込む部分)2本をサンドペーパーなどで
少し削ると入りやすくなります。
ただし、削り過ぎにご注意ください。

▼組み立ての手順が別紙に続きます。

5 上部を組み立てる。(続き)

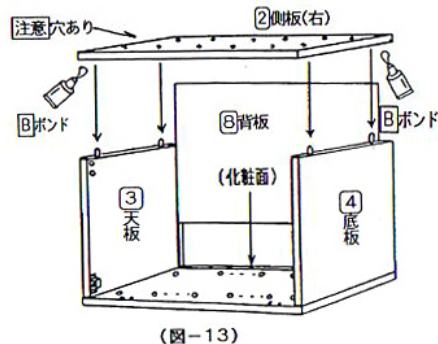
※図-12・図-13は扉が右開きになる組み立て図ですが、左開きの場合も組み立て方は同じです。

- (1) ①側板(左)の穴4個にBボンドを入れ、③天板と④底板を差し込みます。



- (2) ③と④の溝に沿って⑧背板を差し込み、②側板(右)の穴4個にBボンドを入れ、③と④の突起した部分に穴を合わせて、上から傷のつかないようにあて物をあてて打ち込みます。

この時、⑧が各溝に入っているか確認してから打ち込んでください。

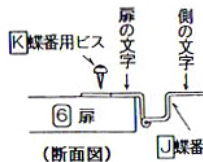
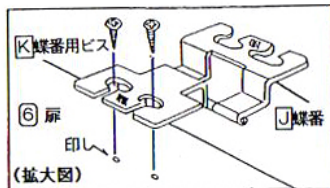
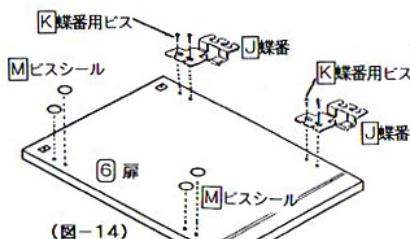


6 扉に蝶番を取り付ける。(左開きの場合)

●扉を左開きにする場合……

- (1) ⑥扉の印しにJ蝶番2個を合わせて、K蝶番用ビスで向きに注意して取り付けます。(図-14・拡大図・断面図参照)

- (2) 不要な穴4個にMビスシールを貼ってください。(図-14参照)

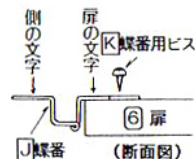
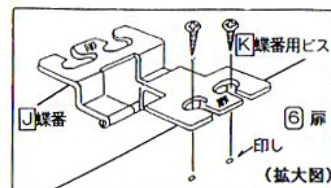
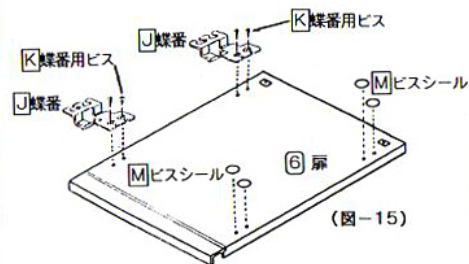


7 扉に蝶番を取り付ける。(右開きの場合)

●扉を右開きにする場合……

- (1) ⑥扉の印しにJ蝶番2個を合わせて、K蝶番用ビスで向きに注意して取り付けます。(図-15・拡大図・断面図参照)

- (2) 不要な穴4個にMビスシールを貼ってください。(図-15参照)

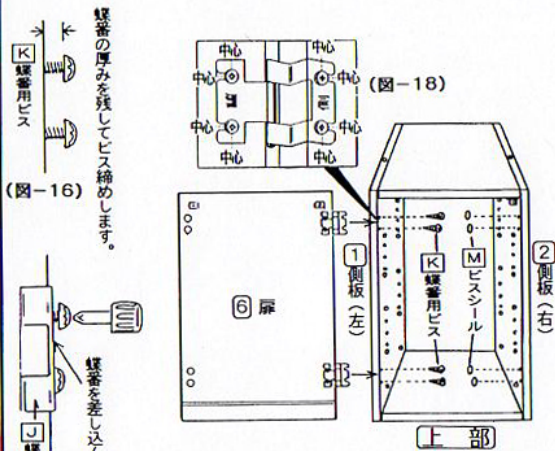


▼組み立ての手順が裏面に続きます。

8 扉を取り付ける。(左開きの場合)

●上部の扉を左開きにする場合……

- (1) ①側板(左)の印し4カ所にK蝶番用ビスを半分程度残してビス締めします。(図-16・図-18参照)
- (2) ⑥扉に取り付けたJ蝶番を、①に取り付けたK蝶番用ビスに合わせて差し込みビス締めします。(図-17・図-18参照)
- (3) 最後に②側板(右)の穴4個にMビスシールを貼って穴を隠してください。(図-18参照)



(図-16)

(図-17)

(注意)

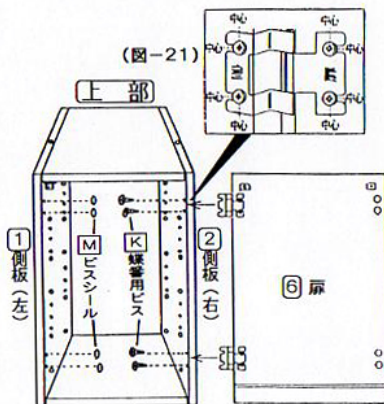
※蝶番のビス締めする部分は楕円形になっていますので、最初は楕円形の中心でビス締めして下さい。すきまや高さが合わない場合にビスを少し緩め、前・後・上・下させて調整して下さい。(図-18参照)

※扉を取り付けた後ビスを少し緩め、すきまの調整をしてからしっかりと固定します。
扉に取り付けたK蝶番用ビスで、扉を横に動かすことが出来ます。
側板に取り付けたK蝶番用ビスで、扉の高さを調整出来ます。

9 扉を取り付ける。(右開きの場合)

●上部の扉を右開きにする場合……

- (1) ②側板(右)の印し4カ所にK蝶番用ビスを半分程度残してビス締めします。(図-19・図-21参照)
- (2) ⑥扉に取り付けたJ蝶番を、②に取り付けたK蝶番用ビスに合わせて差し込みビス締めします。(図-20・図-21参照)
- (3) 最後に①側板(左)の穴4個にMビスシールを貼って穴を隠してください。(図-21参照)

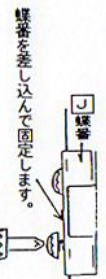


(図-21)

(注意)

※蝶番のビス締めする部分は楕円形になっていますので、最初は楕円形の中心でビス締めして下さい。すきまや高さが合わない場合にビスを少し緩め、前・後・上・下させて調整して下さい。(図-21参照)

※扉を取り付けた後ビスを少し緩め、すきまの調整をしてからしっかりと固定します。
扉に取り付けたK蝶番用ビスで、扉を横に動かすことが出来ます。
側板に取り付けたK蝶番用ビスで、扉の高さを調整出来ます。

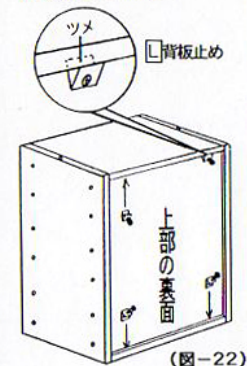


(図-20)

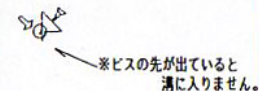
10 上部に背板止めを取り付ける。

上部の横揺れを軽減するため、L背板止めを取り付けます。

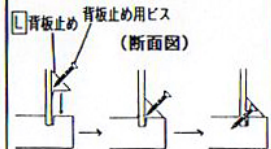
取り付け方は上部裏面の背板部分の溝にL背板止めのツメを溝に入れ、ビスで固定してください。この時、背板が完全に溝に入っていないとビスが背板を固定できませんので注意してください。



(図-22)



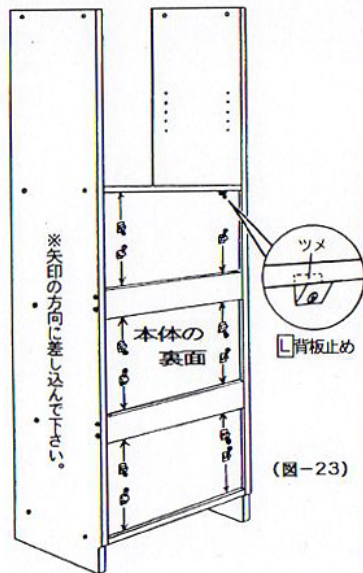
※ビスの先が出ていると溝に入りません。



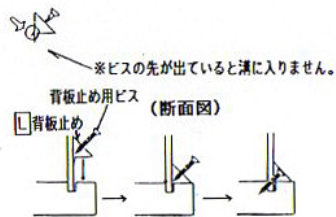
▼組み立ての手順が別紙に続きます。

11 本体に背板止めを取り付ける。

上部と同じ要領で、本体の裏面にもL背板止めを取り付けてください。



(図-23)

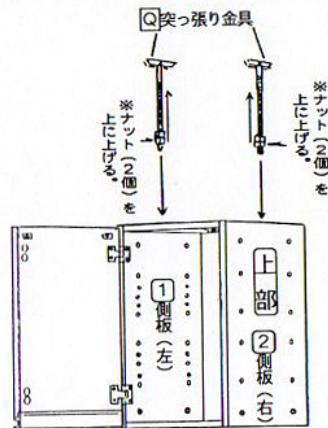


12 本体に上部を連結する。

※連結する時は、設置場所に移動してから連結してください。

- (1) Q突っ張り金具に付いているナット2個を上上げて、左右側板①②の上部の穴に差し込みます。
(図-24参照)

ご注意 連結後に突っ張り金具を差し込むことは出来ません。



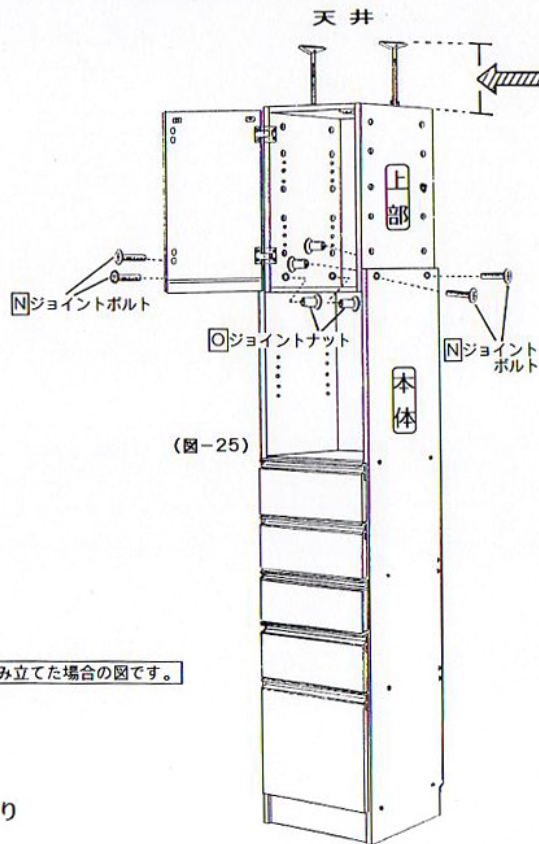
(図-24)

※図-24・25は扉を左開きに組み立てた場合の図です。

△連結する時に上部を落としたり、指を挟んだりしないように充分注意してください。

- (2)設置場所に本体を置き、天井と上部の高さが6cm~19cmの範囲になる位置で本体と連結します。(図-25参照)

- (3)連結方法は上部の内面の穴からOジョイントナットを差し込み、本体外面からNジョイントボルトを差し込んでしっかりと固定してください。(図-25参照)

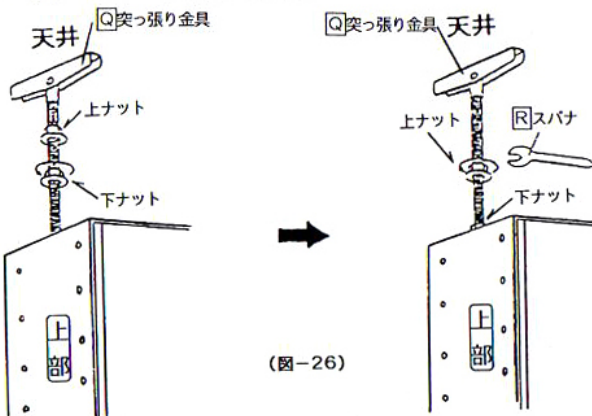


(図-25)

▼組み立ての手順が裏面に続きます。

13 突っ張り金具を取り付ける。

あらかじめ差し込んでおいたQ突っ張り金具を天井にあて、下ナットを上部の側板部分に固定し、上ナットをRスパナでしっかりと締めてください。

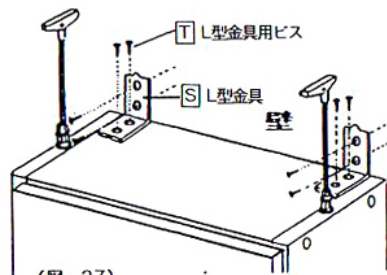


(図-26)

14 L型金具の取り付けについて

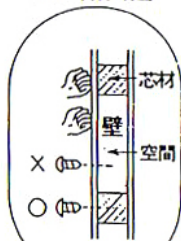
(1)地震などによる転倒を避けるため、S L型金具を上部の上面に取り付けると、よりいっそう安全性が高くなります。(図-27参照)

(2)壁へは芯材のあるところに取り付けてください。(図-28参照)



(図-27)

壁の断面図

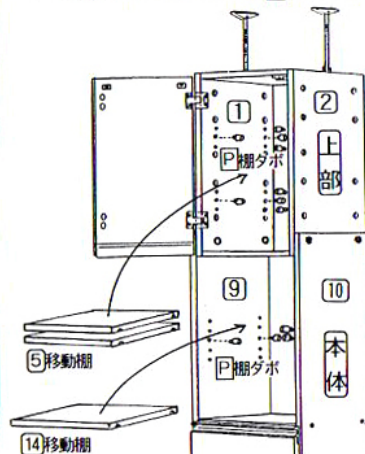


(図-28)

15 移動棚を取り付ける。

(1)上部の左右側板1・2と本体の左右側板9・10のお好みの穴にP棚ダボを差し込み、5・2枚と14の移動棚を乗せてください。(図-29参照)

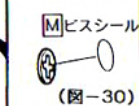
(2)最後に見えているビスの頭にMビスシールを貼れば完成です。(図-30参照)



(図-29)

※この図は扉を左開きに組み立てた図です。

※NジョイントボルトとOジョイントナットには、Mビスシールを貼らないでください。



(図-30)

※ビスが緩んでいないか確認してから貼ってください。

ご使用前の注意

※組み上がった後、各接合部に隙間がないか確認して、ボンドが固まるまで12時間程度待ってからご使用ください。

ご使用上の注意

※引き出しを勢よく引き出すと、引き出しがレールから外れる恐れがありますので、ゆっくりと引き出してください。

ご使用上の注意 ※本体が転倒する恐れがありますので、一度に複数の引き出しを引き出さないようにしてご使用ください。

ご使用上の注意 ※設置終了後、収納物をすべて入れた後で再度突っ張り金具を締め直し、金具及びその他の部材に緩みがないか定期的に点検してください。